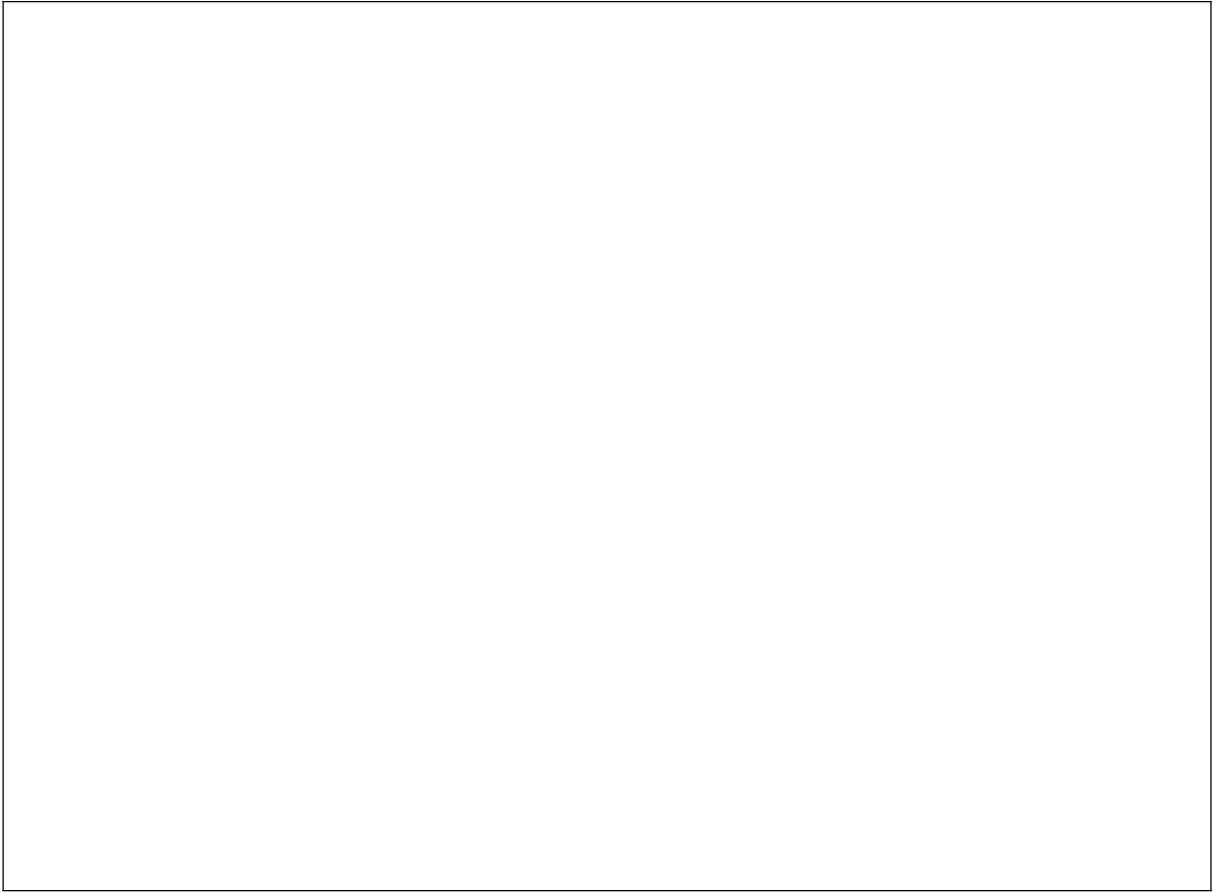


一 次の文章を読んで、後の(一)から(五)までの問いに答えなさい。

竹村 真一(たけむら・しんいち)

『地球の目線 環境文明の日本ビジョン』の一節



- (一) ① 「世界全体がスピードというウイルスに汚染されつつある」という危機感とあるが、どのような現状を指しているか。適切でないものを次のアからエまでのの中から選んで、そのかな符号を答えなさい。
- ア 現代社会の求めに応じることが難しい地域の固有種が流通しにくい現状。
- イ BSEや遺伝子組み換えなどの問題が社会から駆逐されがちだという現状。
- ウ 非効率的で時間がかかるが本物の食材を作る小生産者が生き残りにくい現状。
- エ 食、農の世界の画一化が急速に、それも地球規模で進行し拡大している現状。
- (二) ② 表面的なファストフード批判の説明として最も適当なものを次のアからエまでのの中から選んで、そのかな符号を答えなさい。
- ア スピーディーさだけを求める、冷凍食品や即席メン、ハンバーガーチェーンなど特定の外食産業に対する批判。
- イ 地域固有の菌を使わず、画一化された工業製品として出荷される酒やチーズなどの発酵食品に対する批判。
- ウ プロイラーを抗生物質づけにして、短期間で「チキン」(鶏肉)として工業的に「製造」する体制への批判。
- エ 牛に同類の肉と骨である肉骨粉を食べさせるといふ不自然を冒してまでファストな成長を促す食肉生産への批判。
- (三) ③ こうした大量生産体制でなければこれだけの人口を養えないという声とあるが、これに対する筆者の反論として適切でないものを次のアからエまでのの中から選んで、そのかな符号を答えなさい。

- ア 肉類の生産を支えるだけの穀物があればここまでの食糧危機とはなっていないはずだ。
- イ 不健康になってまで過剰に肉を食べる現代人の食生活を根本的に見直すべきだ。
- ウ 廃棄にかかる億単位の費用を食糧生産に回せば食糧危機はなくなるはずだ。
- エ 大量に生産し大量に廃棄しなければ成り立たない食の環境を見直すべきだ。
- (四) 筆者は第四段落でスローフードとは何かについて述べている。それを要約して七十字以上八十字以下で書きなさい。ただし、「飽食」「デザイン」「革新」という三つのことばをすべて使って、「スローフードとは……」という書き出しで書くこと。三つのことばはどのような順序で使ってもよい。
- (注意) ・句読点や「」も一字と数えて、一字分のマスを使うこと。
 ・文は、一文でも、二文以上でもよい。
 ・次のページの枠を、下書きに使ってもよい。
- (五) 次のアからエまでのの中から、その内容が第五段落・第六段落に書かれているものを二つ選んで、そのかな符号を書きなさい。
- ア 宇宙船地球号の文明デザインとしての「自立分散化」の進行は、生物・文化多様性に対する大きな危機となっている。
- イ 近代社会は世界を画一化する大きな力に支配されたが、マクドナルドは標準化で世界を覆ってその力に対抗した。
- ウ 画一化は農牧畜業でも二十世紀以降急速に進行し、地域ごとの多様な固有種の非常に多くが姿を消してしまっている。

								ス
								ロ
								ー
								フ
								ー
								ド
								と
								は
								、

80 70

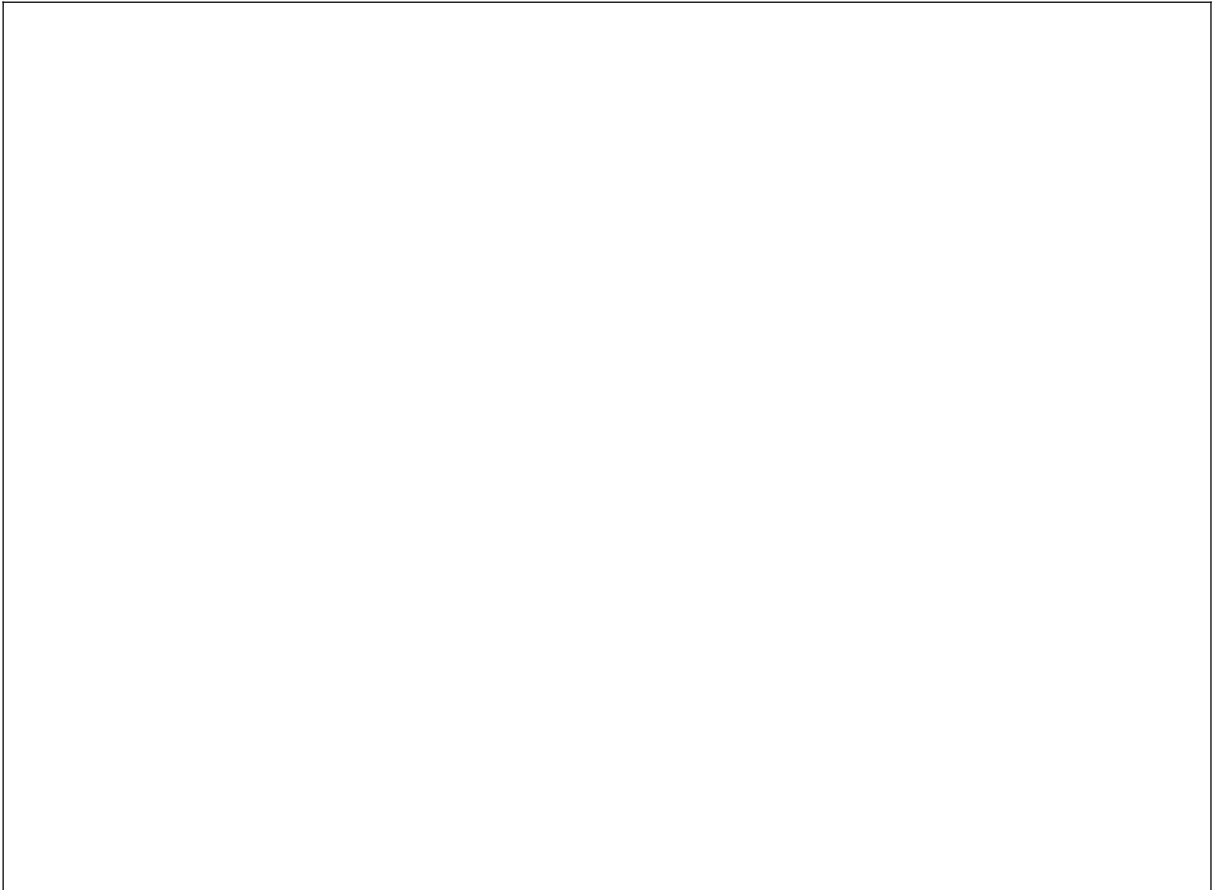
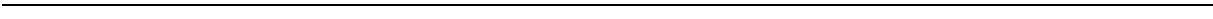
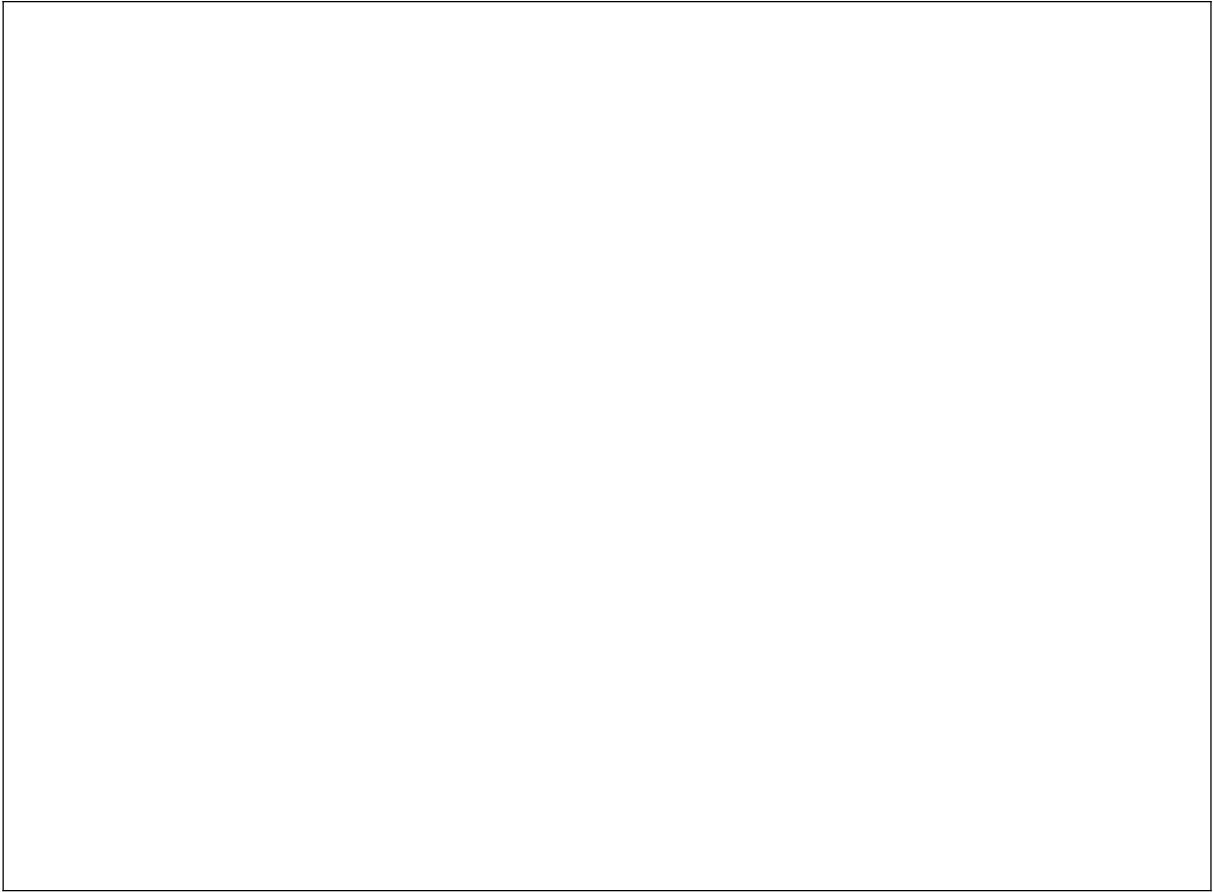
- ※ 左の枠は、(四)の下書きに使ってもよい。ただし、解答は必ず解答用紙に書くこと。
- エ 単一化・画一化のリスクに気づくことで人類は、ゲノムレベルで品種改良を進める重要性に気づくことになった。
- オ 持続可能な「食」を実現するためにも、地球の財産目録ともいえる生物的・文化的多様性を保持すべきである。
- カ 古き時代へのノスタルジアは「味の箱船」の重要なコンセプトの一つであり、こうした多様性が地球の財産である。

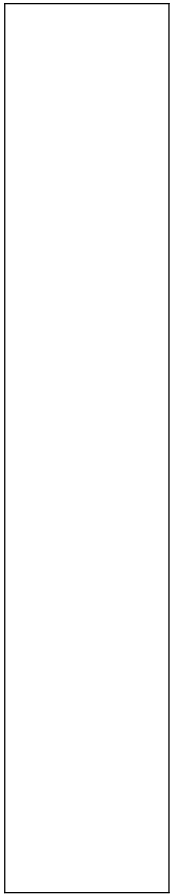
- 二 次の(一)、(二)の問いに答えなさい。
- (一) 次の①、②の文中の傍線部について、漢字はその読みをひらがなで書き、カタカナは漢字で書きなさい。
- ① 日本人は塩分の摂取が多い傾向にある。
- ② 都市のコウガイには住宅地が立ち並ぶ。
- (二) 次の③の文中の傍線部と同じ漢字を用いるものを、あとのアからエまでの中から一つ選んで、そのかな符号を書きなさい。
- ③ 日本の産業の中で、セイミツ機器は重要な輸出品の一つだ。
- ア 問題解決への意志を強く持つセイシン力が必要である。
- イ 彼が信頼されているのは、そのセイジンな人柄からだ。
- ウ 嵐のような風も収まり、森に再びセイジャクが訪れた。
- エ 制作にかかった費用のすべてを会社にセイキュウした。

三 次の文章を読んで、後の(一)から(六)までの問いに答えなさい。

細川 英雄(ほそかわ・ひでお)

『対話をデザインする——伝わるとはどういうことか』の一節





(一)① 「日本社会における」という論点は、きわめて説得力のある、重要な視点のように扱われる。とあるが、その理由として最も適当なものを次のアからエまでのの中から選んで、そのかな符号を答えなさい。

ア 日本社会は、地理的には東アジアに属しながら中国や韓国の影響を受けずに発展し、欧米的な国家的枠組みを形成した特殊なあり方が指摘されてきたから。

イ 日本社会は、同じ東アジアの中国や韓国、明治以降は欧米と多様な影響を受けながらそのどれとも同じではないという独自の形態が指摘されてきたから。

ウ 日本社会は、有史以来中国や韓国の、明治以降は欧米と常に他国の強力な支配下にありながら発展を続けるという特殊なあり方が指摘されてきたから。

エ 日本社会は、鎖国をすることで東アジアの影響下から欧米の影響下へと転換して国家的な枠組みを形成するという独自の形態が指摘されてきたから。

(二) 「A」「B」にあてはまる最も適当なことを、次のアからエまでのの中からそれぞれ選んで、そのかな符号を答えなさい。

ア それとも イ つまり ウ たとえば エ そして
オ なげなら カ しかし

(三)② このタームの畏おその説明として最も適当なものを、次のアからエまでのの中から選んで、そのかな符号を答えなさい。

ア 「日本社会」というイメージを書き手が勝手に持ったために、そのイメージが普遍的、絶対的に存在する「日本社会」のイメージとかけ離れてしまうこと。

イ 一人ひとりが独自にイメージする「日本社会」はしばしば使われることで共有できるのに、読者はそれを仮想と思いこまされてしまうということ。

ウ 「日本社会」のイメージを読者は仮想の上で共有すればするほど、そのイメージを「像」として固定的に考えられなくなる状況に陥ってしまうということ。

エ 「日本社会」というイメージは一人ひとり異なるため共有されないのに、いつのまにか実体として存在し共有されていると思いきまされてしまうこと。

(四)③ 「常識」の説明として最も適当なものを、次のアからエまでのの中から選んで、そのかな符号を答えなさい。

ア 社会イメージの持つ複数性、重層性、複雑性、困難性を知ること、それらを共有できるという考え方。

イ 自己と他者とが社会イメージを共有し、それが大きく発展して社会というものが成り立っているという考え方。

ウ 自己の世界と他者の世界とは決して同一のものとならず、自己、他者、社会の三者は循環する動態だという考え方。

エ 社会の中心は自分自身であり、自分とは何かを考えることが社会とは何かを考えることにつながるという考え方。

(五)

次の文章は第五段落以降を要約したものである。①から⑩までの文の中から本文に書かれていない考え方を含むものを一つ選んで、その番号を書きなさい。

- ① 一人ひとりを単位にして文化を考えれば、さまざまな文脈での相手との人間関係が含まれて、アイデンティティの総体を形成するといえる。② そのため、国家間や民族間の問題、あるいは国民や国家の枠組みだけではない、新しい個人のあり方を考える必要がある。③ 個人を単位に文化を考える場合、自分以外の他者はすべて異文化であり、異なる人間である。④ つまり結局はよくわからない存在であり、他者という個人に一〇〇パーセントの伝達／受容は不可能である。
- ⑤ 他者とのやりとりでは何が起るかわからないが、無視して生きていくことはできない。⑥ お互いに自分とは異なる存在としての他者を認め、ともに協働的に生きていかななくてはならない。⑦ そうして共同体を背負う自分から解放された自分同士になつてはじめて、本当の対話が可能になる。⑧ なぜなら国家や民族は個人の自由の一切を制限する存在だったからである。⑨ 個人が主体となった一対一の他者との関係をもってはじめて、自分のことばで発信する対話的な姿勢が可能になるのである。
- ⑩ 自己と他者との関係を社会の中に位置づけ、その総体で「この私」の在り方を考えることに、本来の意味での対話のインターカルチャー性がある。

(六)

次のアからカまでのの中から、その内容がこの文章に書かれた筆者の考えに近いものを二つ選んで、そのかな符号を答えなさい。

- ア 人は何らかの固定的なイメージを自分の周囲の状況に対して持つており、それぞれが独自のイメージで社会を思い描いているに過ぎない。
- イ 自己と他者と同じ社会のイメージを共有することで社会は形作られており、そのために社会は複数性、重層性、複雑性、困難性を持つ。
- ウ 新しい個人のあり方を考えるには、国民・国家の枠組みから「日本社会」のあり方をもう一度に検討し、その独自性を問い直す必要がある。
- エ 個人が主体となつて異文化としての他者と築く相互の対人関係がこの社会の関係世界を作るものであり、そのためにも対話は重要である。
- オ ブラックボックスとしての他者と協働的な活動をしていくためには、自分の周囲を蝶のように飛び交う情報を巧みに利用する必要がある。
- カ 対話のインターカルチャー性を生かすことで、他者のブラックボックス化は防ぐことができ、自己と他者の関係を社会の中に位置づけられる。

四 次の古文を読んで、後の(一)から(四)までの問いに答えなさい。(本文の……の左側は現代語訳です。)

愚公といひし人ありけるが、家居近く山のありしを厭ひて、脇へ移さんとて、日々に子ども引き具し出でつつ、手づから鋤をととりて一簣づつ

毀ちとりけるを、智叟といひし人これを見て、「かく大なる山を、わ削りつつていたのを」

づかなる人の力にて毀てばとて毀ち尽くさるべきか」と、その愚かさを削り尽くせるであろうか。

笑ひければ、愚公ききて、「わが代より毀ち初めて、わが子の代にも継

ぎて毀ち、わが孫の代にも又その子の代にも継ぎて毀ちなば、終には脇

へ移さぬ事やあるべき」と言へば、いよいよ笑ひけるとなん記し置きけ

り。もとより寓言なれば、この人あるにはあらねども、愚公が言ふやう

なる事は世に愚なりといへば、愚公と名づけ、智叟が言ふやうなる事は

世に智なりといへば、智叟と名づけけるならし。〔駿台雑記〕による

(注) ○簣＝竹やわらなどを編んで作ったかごのこと。

○寓言＝教訓や意見を述べたたとえ話。

(一) 波線部アからエまでの中から、主語が他と異なるものを一つ選んで、そのかな符号を書きなさい。

(二) その愚かさを笑ひければ、とあるが、何を笑ったのか。その内容として最も適当なものを、次のアからエまでの中から選んで、そのかな符号を書きなさい。

ア 愚公が、わざわざ山に近い場所を選び家を建てたこと。

イ 愚公が、一日に一簣分ずつしか山を削らなかつたこと。

ウ 愚公が、少人数で山を移動させようとしていること。

エ 愚公が、先祖代々少しずつ山を削り続けていること。

(三) 終には脇へ移さぬ事やあるべきの現代語訳として最も適当なものを、次のアからエまでの中から選んで、そのかな符号を書きなさい。

ア しまいには家の脇へ移さないといけないのである。

イ 最後まで家の脇に移さないほうがいいのである。

ウ しまいには家の脇へ移すことができるはずである。

エ 最後まで家の脇へ移し続けることになるであろう。

(四) 次のアからエまでの中から、その内容がこの文章に書かれていることと一致するものを一つ選んで、そのかな符号を書きなさい。

ア 愚公は、子どもたちとともに鋤や鍬を手にして山を削っていた。

イ 智叟は、愚公の論の正しさに笑うことができなくなってしまった。

ウ 愚公の主張は、世の中では決して愚かだと考えられてはいない。

エ 智叟とは、彼が「智」に富むために世の中の人が付けた名である。

(問題はこれで終わりです。)

